

# 「ストップ・ザ・いじめ」アクションプラン

～つらいこと・いやなことに「助けて」と叫べる環境づくり～

## 【自分】としての視点

### 人の悲しみに寄り添う感性の育成

【一人ひとりの可能性を伸ばすこと】  
自分はかけがえのない存在であると感じることは  
他者の存在大切にできる  
(自尊感情 将来展望)

## 子どものアクション

- ・気持ちのいいあいさつを自分からしよう。(豊かなコミュニケーション)
- ・自分がされて嫌なことはしない。(共感性)
- ・嫌なことは「やめて!!」とはっきり言う。言えない時は、必ず誰かに相談しよう。
- ・人から「やめて!!」と言われた時は、素直に相手の思いに耳を傾ける。
- ・誰かがいじめられているのを見たら、放っておかず、必ず誰かに伝えよう。
- ・縦割り活動や異学年との交流を大切にしよう。

## 【自分と他者】としての視点

### 違いがあるからすばらしい

【一人ひとりの違いを豊かさとしてとらえること】  
「みんな違ってみんないい」(金子みすず)  
違いを個性として大切に感じる心の育成

## 教職員のアクション

- 【心がまえ】  
「いじめを絶対に許さない」学校づくりに向けて共通理解し、共通実践を進める。  
・「いじめを絶対に許さない。」「いじめられている人を守り通す。」ことを宣言する。  
・生徒指導・人権教育部定例会を通し、子どもたちの抱える問題を共通理解し、解決に向けて取り組む。
- 【早期発見】  
子どもの小さなSOSを見逃さない。  
・休み時間や給食・掃除時間等にも子どもたちとふれあい、子どもたちのつぶやきに耳をかたむける。  
・SOSは言葉や行為だけでなく、そこにある表情等空気感をも見逃さない。  
・「学校全体で子どもを見つめる」意識を全教職員が共有し、教育相談体制を築く。  
・職員研修や職員朝礼で、子どもの様子だけでなく普段から情報交流する。
- 【未然防止】  
子どもの心を耕す。  
・人権教育や道徳教育等を通じて人の気持ちに寄り添える心を育て、なかまと共に生きる集団を育成する。  
・日々の授業の一こま一こまを大切に、人権教育を基盤にすえた授業づくりをめざす。  
・人から訴えを共感的に聴くことができる感性を養うとともに  
自分が「やめて!!」と訴えられた時は、素直に相手の心の痛みを耳を傾ける素地を培う。  
・生徒指導や人権教育をベースとした授業研究・研修の実施。  
・保護者との連携。(家庭訪問・懇談会・連絡帳等)  
情報モラル教育を推進し、ネットワーク上でのいじめ問題の未然防止に努める。

## (めざす子ども)

いじめをしない子  
させない子  
見逃さない子

## 家庭や地域のアクション

- ・日常から子どもたちと積極的に言葉を交わす。
- ・親(大人)として共に生きるという視点で「いじめ」等人として許せないことを、自信をもってその気持ちを伝える。
- ・日常の子どもの言動や表情の中から、いじめや差別の兆しを見逃さない。
- ・登下校時の見守り活動や行事等を通じて、地域の大人に見守られているという安心感を子どもに与え、「まちがったことはできない」という雰囲気を作る。
- ・心配なことがあれば学校に相談する。

## 【集団】としての視点

### 認め合い、支え合える集団作り

【一人ひとりのつながりを大切にすること】  
みんなと心がつながれた喜びを宝物に  
人と心がつながれた喜びは次のつながりを生む